

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

	法学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 前期課程エキスパートコース学生を対象とするカリキュラムの適切性を継続的に検証し、必要に応じて改善する。	→「プログラム別学生数」「専攻科目」「履修科目」「学生に対するプログラム選択理由等についてのアンケート調査の実施」「拡大大学院問題検討委員会における調査結果の分析および改善提案」	B	B			
2. 前期課程社会人入学者を対象とするリサーチワークの拡大について検討し、順次実施する。	→「リサーチワーク対応の科目数」「前期課程社会人入学者を対象とする研究指導のあり方についてのアンケート調査の実施」「拡大大学院問題検討委員会における検討およびその進捗状況の報告」「規定改正ないし内規改正」	C	C			
3. 前期課程および後期課程における学生の多様な履修期待に対応するために特講科目等を活用する。	→「(副題の異なる)特講科目等の開講状況」「特講科目等の履修者数」「特講科目等を開講するための各プログラムおよびプログラム間の調整手続の整備状況」	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 2009年度においては、前期課程の各プログラムにおいて、コア科目と選択的コア科目を区分し、履修上の指針とすると共に、同一名称科目、同一教員担当科目についての修了要件に関する内規を改正した。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 前期課程・後期課程共に、各プログラムないし専攻ごとに高度な専門科目を特講科目として適宜開講できる体制を整えた。
その他	

《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

特になし

【学内委員】

○現状説明が昨年度と同じです。2010年度に実施したこと、また、実施を予定していたが実施しなかったことについて説明することが必要です。

○取組みが進捗中と判断します。

○本記述では、各小項目に十分応えていないと思われます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・小項目で評価することを求めているのは教育目標、学位授与の方針に基づき、目標を達成し、方針にそった学位を授与することを担保するカリキュラムが編成されているか、という点です。求められている評価にそった記述が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

・学生の順次的・体系的な履修への配慮

・各学位課程の固有の課題に応える措置(例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など)

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○6.2.1の現状説明を、下記に変更する。

「修士課程、博士課程とも、基本的に、必要な授業科目を開講していると考えている。修士課程の場合、まず、エキスパートコースとアカデミックコースに分かれそれぞれの履修必要科目を構成し、かつ、プログラムごとに、基本科目（コア科目）、展開科目（選択的コア科目）、関連科目（他プログラム開講科目）、に区分されて提供されており、さらに他研究科の科目も履修が可能である。カリキュラム改革を2010年度に行い、その際にこの構成については十分な検討を行って編成した。また、2010年度においては科目の構成について、院生会とも協議を行なって、受講生からの意見を聴取している。」

★

○6.2.2の現状説明を、下記に変更する。

「前期課程・後期課程共に、各プログラムないし専攻ごとに高度な専門科目を特講科目として適宜開講できる体制を整えた。また、税理士資格試験との関係でニーズが高まっている税法についても、客員教員制度を利用して複数の担当者による指導を行うなど、学生のニーズにこたえた体制をとっている。ただし、特に後期課程においては、学生数が十分ではなく、現状では広範囲な科目提供を行っているが、さらに広げるためには前提的な受講生確保が条件となっている。」